企業名：　新日本科学

レポート名：　統合報告書 2022

**1. この会社が目指している将来の姿が理解できるか**

本統合報告書を通じて，「環境、生命、人材を大切にする会社であり続ける」という企業理念がそれぞれの事業にどう結びついているのかということが首尾一貫して説明されていると感じた．6・7 ページで概要が記されているように，同社の掲げる「2028Vision」という中長期目標に繋がっていくための現在の事業体制，経営資源や価値創出の詳細（具体的には財務資本と人的資本・知的資本・社会/関係資本・設備資本・自然資本の 6 つの目指す姿）が明確かつ詳細に記されている．このことから同社が将来に対する具体的考えを持っており，進むべき道筋が見えているのだろうと感じた．さらに健康経営に関しては，宣言するだけにとどまらず健康管理サービスを社内に導入し，実際のデータに基づいた客観的な分析を実施・開示しているため，目指す将来の姿に近づくための積極的な努力が感じられた．

**2. この会社の現在の競争優位性が理解できるか**

同社が，競合他社にはない独自の技術を有しており長年環境に配慮した経営を行ってきたノウハウが蓄積されていることなど，競争優位性が明確に理解できた．長年の研究実績が生み出す技術力・信用力と，それに伴って構築された協業者との関係性は同業他社が模倣しにくいため競争優位性の源泉になっていると感じた．CRO 事業に関しては，業界で唯一自社グループ内での実験用 NHP の繁殖・供給体制を整えている，とあることから世界的に見ても外部委託先となり得る技術力を有していることが分かり，業界内で果たす同社の役割の大きさを垣間見ることができた．また，同社の事業領域が近年の世界的潮流である SDGs や ESG の立場から見て非常に適合的であることから，同社にとっては事業の成長追求が SDGs/ESG の追求を意味することになる．そのため本業とは別に SDGs/ESG に取り組む企業とは一線を画することが可能である点にも競争優位性を見ることができた．

**3. その競争優位性に持続性があるかどうか理解できるか**

技術面に関しては社内教育システムによって高度な人材を育成していることが読み取れるため長期的な持続性があると感じたが，環境面に関してはバイナリー式地熱発電所を運営したノウハウと実績が生み出す競争優位性が，果たして長期的に持続するかどうかは曖昧さが残った．長年の実績に裏打ちされたブランド力は持続性があるが，一般的に同業他社がイノベーションを起こしより安価で安全な製薬を可能にした際，競争優位性は揺らいでしまうだろう．そうした観点から社内での研究開発が求められるが，同社では先述した社内教育システムや社員のサイエンス力向上に向けた取り組みを行っていること，DX の推進に

よって生産活動に従事可能な時間を増やす取り組みを行っていることなどから，現在の競争優位性に甘んじることなく，常に新たな競争優位性の確保を目指している姿勢が感じられた．

他方で同社の競争優位性の遠因となってきた企業理念の浸透については経営陣が精力的にコミットしていることが読み取れ，マネジメントの主軸に経営理念が常に存在し続ける構造を構築できていることから持続性があると理解できる．しかし，My 理念実践という 4 行日記を毎日社員に課すことによって理念が，目指すべき目標や理想ではなくなり，単なる「文字列」になってしまう懸念があると感じたが，その疑問を解消する文言は見当たらず，理念の真の意味での浸透持続性には少々の疑問が残った．

**4. この会社で自身の人的資本の価値向上を達成できると思うか**

社内教育システムが整備されており，学位取得に向けた社内奨学金の制度など，同社が積極的に人的資本に投資しようとする姿勢が読み取れたため，この会社で自身の人的資本の価値向上を達成できると感じた．しかし，統合報告書には現在の人的資本の状況とこれまでのマネジメントの取り組みが記された 2 ページの説明のみであったため，自身が同社で人的資本の価値創造が達成できるかどうかに関しての詳細な分析は困難であると判断した．換言すれば統合報告書では同社のステークホルダーの一員である従業員の人的資本の価値向上に対する取り組みが十分に記されていない可能性があるということである．

**5. 報告書のよかった点はどこか、どのような改善余地があるか**

よかった点は，統合報告書を通じて同社が大切にしている価値観（企業理念など）を読み手が理解できるようになっていたこと，またサステナビリティの推進に関しても詳細かつ明瞭な説明が与えられていたことである．

改善余地として挙げるのは読んでいて不明瞭さが感じられた以下の 3 点である．一つ目は，「働くなでしこ委員会」の設置に関することである．その理念は社会的意義のあるものであるが，「なでしこ」とは「なでしこジャパン」等で用いられているように一般に日本人女性を想起する単語であるため，その名称に関しては多様なバックグラウンドを持つ労働者を受け入れるクローバル企業として Diversity & Inclusion の観点では不適切ではないかと感じた．二つ目は，形式的な点ではあるがページによってセクションブロックの改行方針が不揃いであり読みにくさを感じたことである．文章の読みやすさは企業の印象にも一定の影響を持つと考えられるため改善の意義はあると感じた．三つ目は，「2028Vision」に関することである．名称から中長期目標であると察したが，統合報告書内では明確な定義がなされておらず，曖昧さがあった．統合報告書に頻出する言葉には明確な定義を与えるなど，読み手により正確な情報伝達ができる余地があると感じた．